

愛荘町いのち支え愛プラン

3月は自殺対策強化月間です

「自殺は、その多くが追い込まれた末の死」と言われており、「誰にでも起こり得る危機」という認識がされています。
愛荘町では、すべての住民がかげがえのない個人として尊重され、「誰もが自殺に追い込まれることのない町」を実現するため、「愛荘町いのち支え愛プラン」を策定しました。

愛荘町いのち支え愛プラン

誰もが生きがいや希望を持って
生きることができる

心ふれ愛、
いのち支えるまち
あじょう

基本方針

生きることの
包括的な支援

連携・協働
による総合的な
対策の展開

対応の段階に
応じた支援

基本理念

4つの基本施策

- ① 地域におけるネットワークの強化
- ② 自殺対策を支える人材の育成
- ③ 住民への啓発と周知
- ④ 生きることの促進要因への支援

計画の詳しい内容は、4月以降に発行予定の、「愛荘町いのち支え愛プラン概要版」、または4月以降にホームページに掲載予定の、「愛荘町いのち支え愛プラン」をご覧ください。

3つの重点施策

- ① 勤務問題に関する自殺対策
- ② 子ども・若者に関する自殺対策
- ③ 無職者・失業者を含む生活困窮者への自殺対策

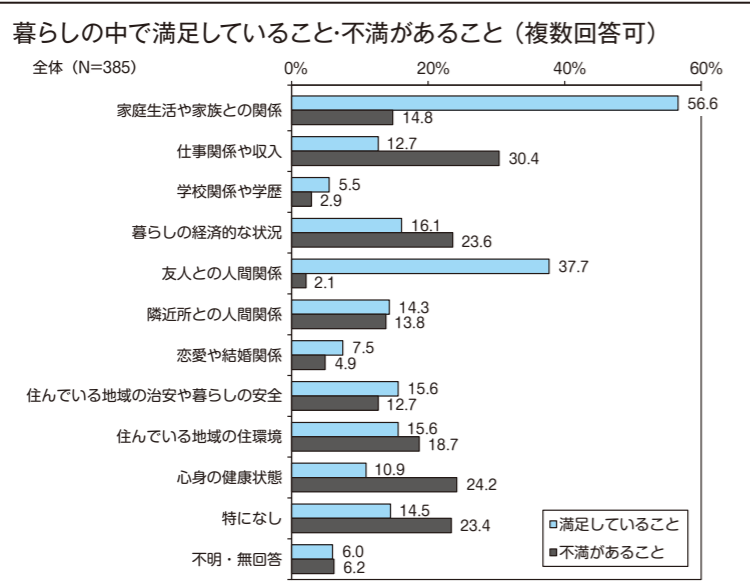
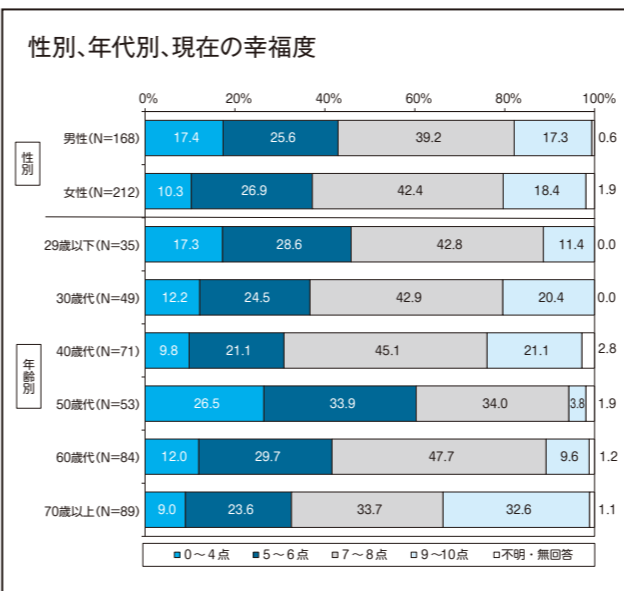
計画では、基本理念と、3つの基本方針をもとに、3つの重点施策と4つの基本施策、合わせて7施策・19項目を中心に、愛荘町の実情に応じた、生きることの包括的な支援を推進していきます。

アンケート調査を実施しました

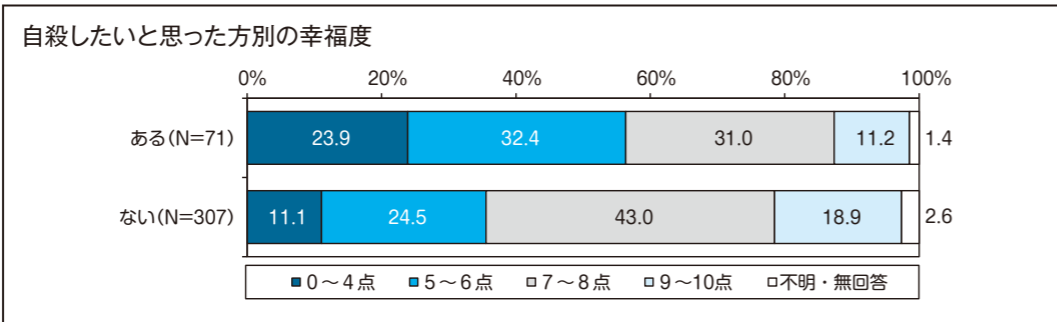
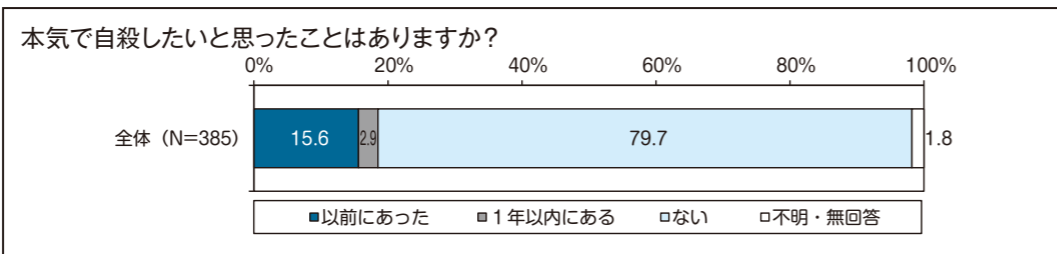
昨年度、計画策定に向けて、愛荘町にお住まいの十八歳以上の方、千人（回収率38・6%）と、中学2年生（現3年生）一七五人（回収率100%）に対して、「自殺対策計画策定のための中学生アンケート調査」を実施しました。その一部を、紹介します。

一般住民アンケート結果

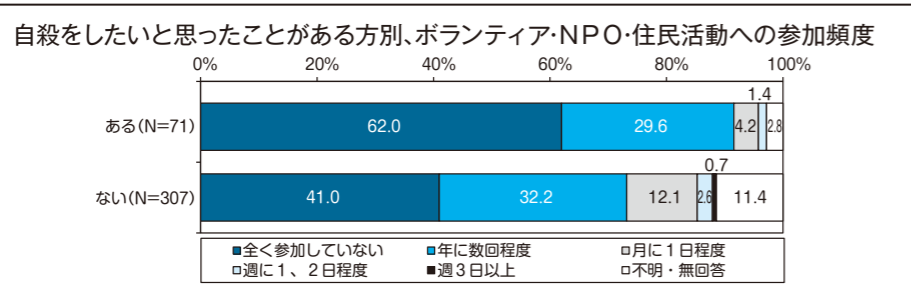
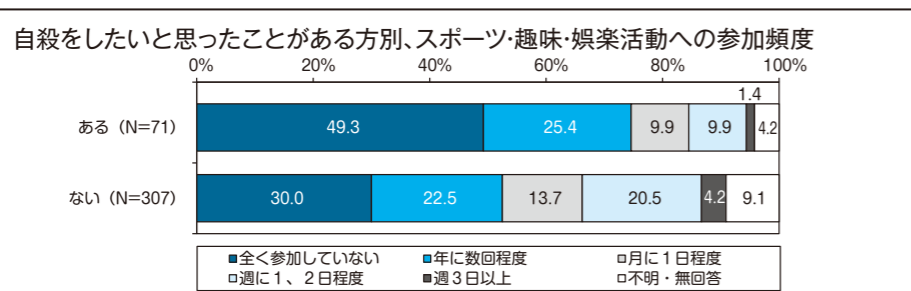
現在の幸福度



まずは、一般住民のアンケート結果です。現在の幸福度を、聞いた質問では、前ページ下図のような結果になりました。どの年代も、「5~6点」「7~8点」の割合が高くなっています。が、七十歳以上の方では、「9~10点」も高く、幸福度が高いという結果になっています。反面、五十歳代の方は、「0~4点」と答えた割合が他の年代に比べ高い結果が出ています。
次に、暮らしの中での満足していること・不満があることを聞いた調査では、「家庭生活や家族との人間関係」がもっとも満足している人が多く、「仕事関係や収入」に不満を持っている人が多という結果になりました。



右図より、本気で自殺したいと思ったことがありますか？という質問では、「以前にあった」「1年以内にある」と答えた方は、全体の約2割であり、特に、幸福度が低い方に、自殺したいと思ったことが多くの方がわかります。



本気で自殺したいと思ったことが「ある」と回答した方と、「ない」と回答した方で、大きく差が出ていたのが、余暇活動の差です。
左図より、「スポーツ・趣味・娯楽活動」や、「ボランティア・NPO・住民活動」への参加頻度の差のとおりです。
このことから、人とのつながりや地域でのつながりが、いのちを支える取り組みに効果が期待できると考えます。